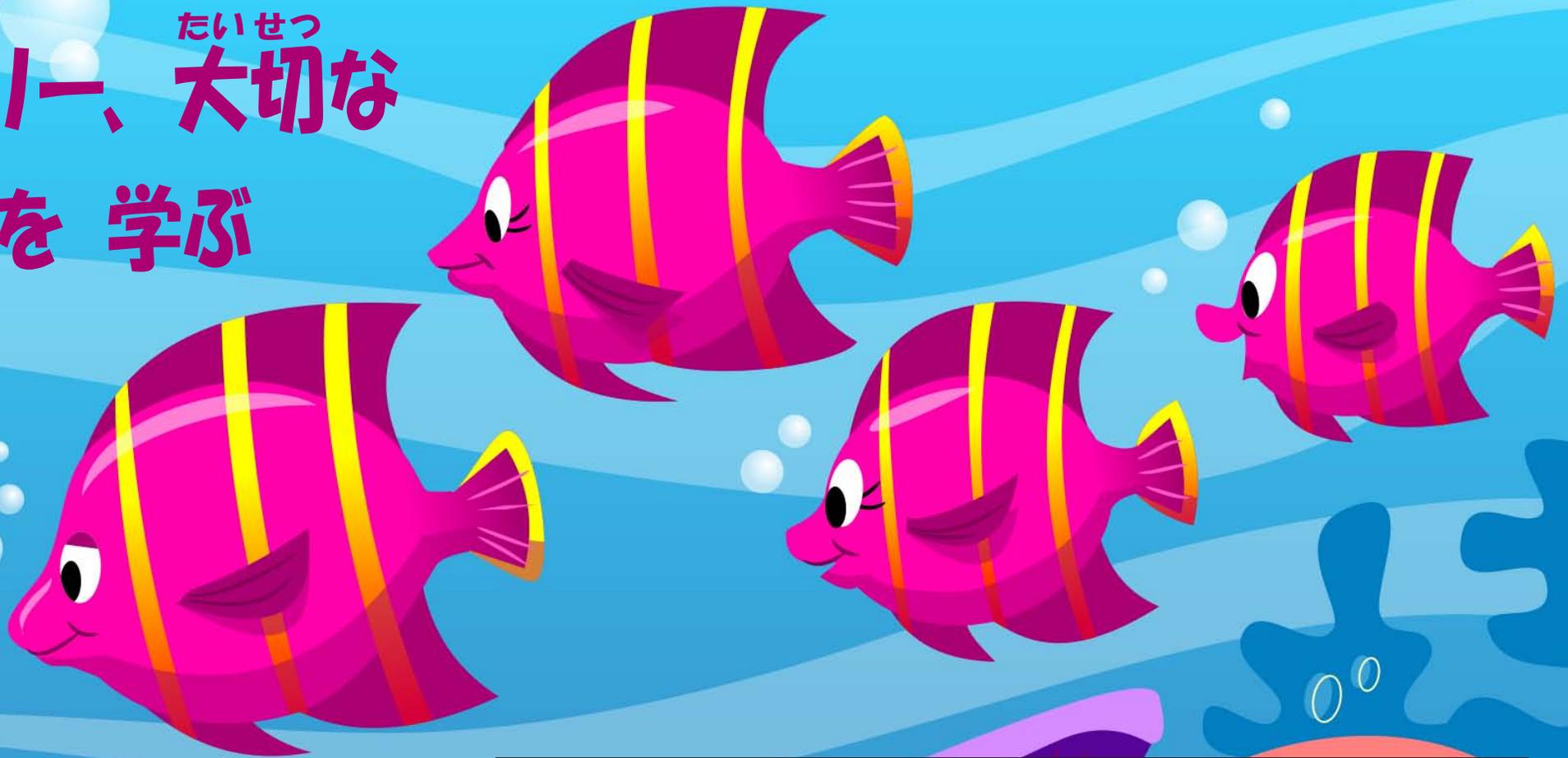


# たいせつ シェリー、大切な きょうくん 教訓を学ぶ



おお いろ しょう しあわ かぞく す  
大きくて 色とりどりの サンゴ礁に、幸せな エンゼルフィッシュの 家族が 住んでいました。  
パパと ママと お兄ちゃんの ベン、それに シェリーです。

かぞく まいにち た もの おお さかな た きけん い もの  
シェリーの 家族は 毎日、食べ物を さがしたり、大きな 魚や その他の 危険な 生き物に  
ねらわれて いないか 気を 配るので、いそがしくしていました。でも、シェリーと ベンには  
ほかの 友達と およ まわ あそ じかん  
ほかの 友だちと 泳ぎ回って 遊ぶ 時間が たっぷり ありました。

あそ  
ある日、シェリーは ピント一家の 小さな 友だち ニひきと、かくれんぼをして 遊んで  
いました。緑色の 長い 海草の かげに かくれ、サンゴの かげを 出たり 入ったり しながら、  
みどりいろ なが かいそう  
緑色の 長い 海草の かげに かくれ、サンゴの かげを 出たり 入ったり しながら、  
いらないいばあをして 相手をおどろかすのです。



けれども、三びきはあまりにも遊びに夢中になっていて、自分たちがサンゴ礁の中心からはるかに遠くまで来てしまったことに気がつきませんでした。子どものエンゼルフィッシュは、親と一っしょにいる時以外は、サンゴ礁の中心地帯にいないではなりません。子どもたちだけで大海原に出て行くのは、あまりにも危険だからです。

ピント姉妹の1びきが、自分たちが遊びに夢中になっているうちにあまりにも遠くに来てしまったことに気がつきました。「ねえ、わたしたち、遠くに来過ぎたんじゃない？ もどらないと！」

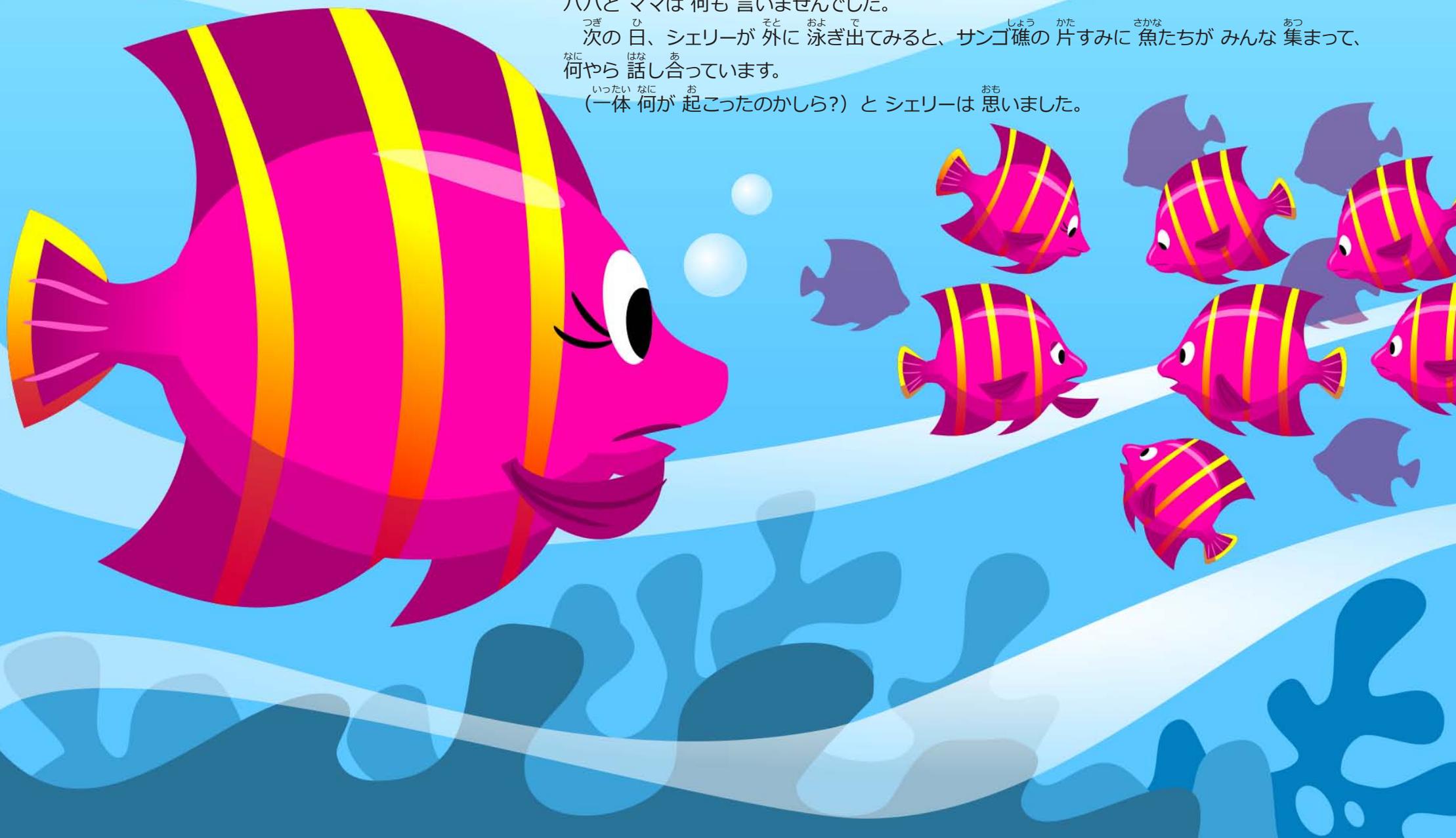
シェリーは、三びきの中では一番年上でした。ちょっと考えてから、シェリーは言いました、「この長い海草の中にかくれている限りは、安全だわ。大きな魚には見えないわよ。それに、ここはとっても楽しいんだもの！」

2ひきの<sup>とした</sup>年下の<sup>とも</sup>友だちは、<sup>おも</sup>そうかなあと<sup>おも</sup>思いましたが、<sup>いちばん</sup>一番<sup>としうえ</sup>年上の<sup>い</sup>シェリーが<sup>い</sup>そう言うので、  
それで<sup>おも</sup>いいやと<sup>おも</sup>思って<sup>あそ</sup>遊び<sup>つづ</sup>続けました。

しばらくして、みんな<sup>い</sup>おなかが<sup>い</sup>すいてきたので、<sup>いえ</sup>家に<sup>かえ</sup>帰りました。シェリーは、<sup>じぶん</sup>自分たちが  
<sup>とお</sup>あまりにも<sup>い</sup>遠くに<sup>い</sup>行ってしまったことが<sup>い</sup>パパと<sup>い</sup>ママに<sup>わか</sup>わかってしまうかなあ、と<sup>おも</sup>思いましたが、  
パパと<sup>い</sup>ママは<sup>なに</sup>何も<sup>い</sup>言いませんでした。

<sup>つぎ</sup>次の<sup>ひ</sup>日、<sup>い</sup>シェリーが<sup>そと</sup>外に<sup>およ</sup>泳ぎ<sup>で</sup>出してみると、<sup>しょう</sup>サンゴ礁<sup>かた</sup>の<sup>さかな</sup>片<sup>あつ</sup>すみに<sup>い</sup>魚<sup>い</sup>たちが<sup>い</sup>みんな<sup>あつ</sup>集まって、  
<sup>なに</sup>何<sup>はな</sup>やら<sup>あ</sup>話し<sup>あ</sup>合っています。

(<sup>いったい</sup>一体<sup>なに</sup>何が<sup>お</sup>起こったのかしら?)と<sup>い</sup>シェリーは<sup>おも</sup>思いました。



みんなのいる方<sup>ほう</sup>に泳<sup>およ</sup>いでいくと、パパがほかの魚<sup>さかな</sup>に話<sup>はな</sup>している声<sup>こえ</sup>が聞こえました。

「ピント姉妹<sup>しまい</sup>は今日<sup>きょう</sup>、もう少し<sup>すこ</sup>でばか<sup>さかな</sup>でかい魚<sup>で</sup>に出<sup>で</sup>くわすところ<sup>ところ</sup>だったよ。

ちょうどわたしが見<sup>み</sup>はりを  
していた時<sup>とき</sup>、あの大きな魚<sup>さかな</sup>が  
ピント姉妹<sup>しまい</sup>のいる方<sup>ほう</sup>にやっ<sup>き</sup>て来た  
ところ<sup>ところ</sup>を見<sup>み</sup>つけたので二ひき<sup>に</sup>を  
呼<sup>よ</sup>びもどし、安全<sup>あんぜん</sup>なサンゴ礁<sup>しょう</sup>の  
中<sup>なか</sup>にかくれさせるのに  
間<sup>ま</sup>にあ<sup>あ</sup>ったと  
いうわけ<sup>わけ</sup>なんだ。  
本当<sup>ほんとう</sup>にあぶ<sup>あ</sup>なかったよ。」

「でも、どうしてこんなことになったの？」

小さい<sup>ちい</sup>むすめたちのそば<sup>そば</sup>に泳<sup>およ</sup>いできたピント・ママ<sup>ママ</sup>が聞<sup>き</sup>きました。

「わたしも、それを知<sup>し</sup>りたいものだ。」集<sup>あつ</sup>まっているエンゼルフィッシュ  
みんなを見<sup>み</sup>渡<sup>わた</sup>しながら、パパが言<sup>い</sup>いました。

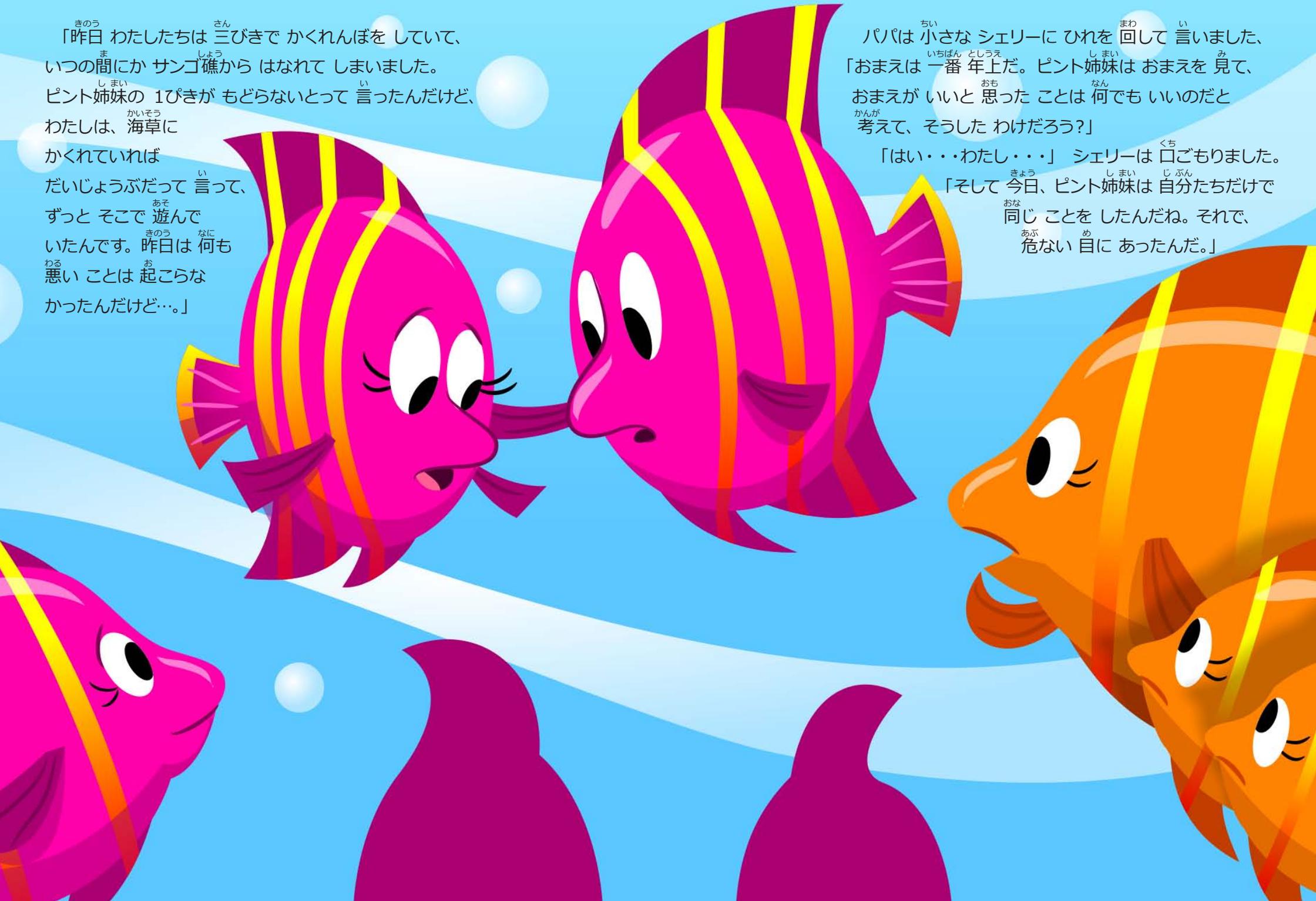
シェリーはむねがいっぱいになり、か細<sup>ほそ</sup>い声<sup>こえ</sup>で言<sup>い</sup>いました。「わたしの  
せいだわ。本当<sup>ほんとう</sup>にごめん<sup>ごめん</sup>なさい。」

「こっちに來<sup>き</sup>なさい。」とパパが言<sup>い</sup>うと、魚<sup>さかな</sup>たちはみんな、  
シェリーのために道<sup>みち</sup>をあ<sup>あ</sup>けました。

「昨日 わたしたちは 三びきで かくれんぼを していて、  
いつの間にか サンゴ礁からはなれて しまいました。  
ピント姉妹の 1びきが もどらないとって 言ったんだけど、  
わたしは、海草に  
かかれていれば  
だいじょうぶだって 言って、  
ずっと そこで 遊んで  
いたんです。昨日は 何も  
わるい ことは 起こらな  
かったんだけど…。」

パパは 小さな シェリーに ひれを 回して 言いました、  
「おまえは 一番 年上だ。ピント姉妹は おまえを 見て、  
おまえが いいと 思った ことは 何でも いいのだと  
かんがえて、 そうした わけだろう？」

「はい…わたし…」 シェリーは 口ごもりました。  
「そして 今日、ピント姉妹は 自分たちだけで  
同じ ことを したんだね。それで、  
あぶない 目に あったんだ。」



パパは、集まりの 前まえに いる 小さな エンゼルフイッシュ みんなを 見渡みわたしました。「これは、みんなに とも、とても 大切な 教訓きょうくんだ。君たちは おたがいに、  
良い 手本てほんにならなくてはね。君たちの する ことは 何でも、小さな エンゼルフイッシュの だれかが まねを するかもしれないのだから。もし 良い 手本てほんで  
いて 言いつけを 守るなら、ほかの 者たちも、それに 習ならって 言いつけを 守るだろう。だが、言いつけを 守らず、すべきで ない ことを するなら、それも、  
小さな 者たちが まねするだろうからね。」

「言いつけを 守らず、サンゴ礁しょうそとの外でに出、本当に ごめんなさい。もう こんな ことは 二度にどと しません。だから、ほかの みんなも、こんな ことは しないでね。」  
と シェリーが 言いました。

かのじよ  
彼女は パパに 言いました。「わたし、これからは、もっと 良い  
お手本てほんになるわ。わたしの する ことを ほかの 子どもたちも  
見みていて、まねするって いう ことを、忘わすれないわね。」

パパは、シェリーの 背せなか中を ポンポンと たたいて ウィンクしました。  
「いい子だ、シェリー。がんばるんだよ。」